

～理系ソフィアンのつどい～のご案内

★主催：理工学部同窓会、理工学振興会 ★協賛：研究推進センター

今年も「理系ソフィアンのつどい」を行います。同窓生・教職員・現役学生が、交流を深められるように色々と企画しています。理工学部卒業生はもとより、他学部卒業生もどうぞお気軽にお立ち寄りください。

日時：2019年5月26日（日）10:00～17:00

場所：上智大学11号館3階全フロアおよび6号館305号室

【ポスター発表】 11-311号室 12:00～15:00

生物領域	「眠る植物、その主役の葉枕とは」	神澤 信行 教授
機械工学領域	「コンタクトスポーツにおける脳震盪の発症リスク予測」	張 月琳 助教
情報学領域	「宮古島産マンゴー生産の活性化に関する研究ー頑長れ宮古島！ー」	山下 遥 助教
電気電子工学領域	「Ⅲ族窒化物・酸化物半導体結晶成長、及び光・電子デバイス応用に関する研究」	富樫 理恵 助教
物理学領域	「ナノサイズ金微粒子を用いた糖センサーの分子認識機構の研究」	後藤 貴行 教授
数学領域	「数論における双対性とゼータ関数」	都築 正雄 准教授
応用科学領域	「太陽電池材料として期待を集める有機無機ハイブリッド材料」	竹岡 裕子 教授
化学領域	「多様な骨格を有する遷移金属錯体の創成と反応」	三澤 智世 助教
テクノセンター	「テクノセンターの役割と将来展望」	田中 秀岳 准教授
理工学部同窓会	「医療情報システム研究会」	久保田 俊雄 副会長
理工学部同窓会	「ビッグデータ研究会」	井上 俊一 理事
理工学部同窓会	「IoT&AI研究会」	鴨川 威 事業企画委員
理工学部同窓会	「企業経営者の会」	中山 紘一 事業企画委員

【講演会】 11-305号室 （講演の概要は次ページに示しますので、ご参照ください）

13:30～14:20	「シリコンプラットフォームへの半導体レーザー集積化技術」	機能創造理工学科 下村和彦 教授
14:30～15:20	「いきるX～ものづくり発想による社会デザイン」	'87年化学科卒 平田賢典 氏

【懇親会】 11-311号室 15:30～16:30 （飲み物と軽食を無料でご用意しております、どなたも奮ってご参加ください）

【クラス会・研究会】

11-320号室	11:30～13:00	つくるネットワーク 講演会
11-321号室	11:30～14:30	医療情報研究会
11-325号室	11:00～13:00	'71 機械科卒クラス会
11-326号室	10:30～15:30	電々同窓の集い

【キッズコーナー】 6-305号室 10:00～15:00

「ちびっ子たち集まれ！ 超電導リニアモーターカーの実演」

注）今後、企画を変更させて頂くことがあります。

その際は順次更新してホームページ（<http://www.sophiakai.jp/blog/rikougakubu-alumni/>）に掲載いたします。

お問い合わせ、ご意見・ご要望は、上智大学理工学部同窓会（rikougakubu-alumni@sophiakai.gr.jp）までお寄せください。

講演の概要：

1. 「シリコンプラットフォームへの半導体レーザ集積化技術」

講演内容：

IoTを支える光通信技術は、長距離大容量伝送、LANからサーバ間、ボード間へとその用途が広がっている。究極的なチップ間、チップ内の光配線（光インターコネクション）を実現するためには、集積回路が構築されたシリコンプラットフォームに光デバイスを集積化することが重要な技術となる。本講演では、特にシリコン基板上に半導体レーザを集積化する技術の現状と課題について解説を行う。

講師：上智大学理工学部 下村 和彦 教授

講師プロフィール：

1992年上智大学理工学部電気・電子工学科へ専任講師として着任。本年度で27年目。これまで卒研生143名、修士課程修了82名、博士課程修了3名を指導。研究室に有機金属気相成長装置があり、化合物半導体の結晶成長、光通信用半導体光デバイスの開発を行ってきた。これまでの主な研究テーマは、光制御FET、波長フィルタ・スイッチ、量子ドット、ナノワイヤ、シリコン基板上レーザ。2000年～2001年、サバティカルで米国ベル研究所にMember of Technical Staffとして在籍。



2. 「いきるX～ものづくり発想による社会デザイン」

講演内容：

理工学部でものづくりと人間学を学んだ卒業生のみなさん、これらを活かして人生を楽しんでいますか？ものづくり発想による社会デザインを生き方に活かして粹に人生を楽しむヒントをお話したいと思います。いきるXは人生100年時代の人生の各々の(X回目)のステージにおいて、ものづくりの発想を活かして周りの社会を各自が過ごしやすいように変えていくための方法論。対象とする社会は地域社会から世界まで多岐にわたります。「いきる」をひらがな表記として、「活かす」「生き方」「粹」と韻を重ねています。また、「いきる」というテーマは私が学生時代、大好きで今でも年に二回くらい食事会で一緒させていただいている、人間学のハビエル・ガラルダ先生の授業で、よく先生がネタに使われていた、黒澤明監督の映画「生きる」も意識して設定してみました。

講師 1987年化学科卒 平田 賢典 氏

講師プロフィール

1987年 上智大学理工学部化学科卒
1987年都市銀行入行後6年間の支店勤務を経て、同行総合研究所出向、調査 研究に従事。専門はユニバーサルデザイン、社会デザイン、山村再生など。
2007年 立教大学大学院独立研究科21世紀社会デザイン研究科修士課程修了
2016年 同大学院博士後期課程単位取得満了
現、立教大学社会デザイン研究所 研究員

